

国語科教育（小学校）部会

豊かな表現力の育成～伝え合う力を高める指導の研究～

I 研究テーマについて

伝え合う力を高める指導の研究について、継続して取り組んでいる。昨年度までの研究の成果と課題を踏まえ、今年度も伝え合う力に重点を置き、読むこと・書くことの領域の中での指導の工夫について取り上げた。また、子ども達の考えを深め表現力をはぐくむための音声言語と文字言語が有機的に関わるような学習形態・指導法・教材の開発、更に「単元を貫く言語活動」についても理解を深めていきたいと考え、このテーマを設定した。

II 研究の内容

1 「単元を貫く言語活動」を設定した授業づくり～伝え合う力を高める指導～

○伝え合う力を高めるための指導の在り方について

講師 山梨大学教職大学院客員教授 中澤 勇三 先生

(1) 講演 ・テーマから授業をイメージする ・「伝え合う力」とはどんな力か
・「話すこと・聞くこと」「書くこと」・「言語獲得と活用」 等

(2) 質疑

2 授業研究

(1) 単元名「1年生に学校行事を伝えよう」(教材名「伝えよう、楽しい学校生活」)

日下部小学校3年担任 橋本 耀太教諭

(2) 単元の目標

【話す・聞く】○学校生活の中から話題を決め、1年生が聞きたいと思うように内容をまとめている。

◎理由や事例を挙げながら筋道を立てて、丁寧な言葉を用いたり、1年生が分かる適切な言葉をつかったりして話すことができる。

◎内容のまとまりや構成を意識し、言葉の強弱や抑揚、視線、間の取り方、非言語的アプローチ（ジェスチャー・実演等）等を工夫して話すことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また語句には性質や役割の上で類別があることを理解する。

(3) 成果と課題

ア 単元を貫く言語活動＝「1年生に向けての学校行事の発表会」

…友達と「どのような内容が伝わりやすいか」「どのような伝え方なら伝わりやすいのか」などを考え、話し合ったり、互いを見ながらふり返ったりすることができた。また1年生という対象を決めたことで、相手意識をもって意

欲的・主体的に取り組むことができた。

イ i-Pad の活用…ふり返りがしやすかった。

ウ ペア・グループの活用の工夫…同じ学校行事グループ、別の学校行事グループと様々な形態での発表・話し合いを行うことで、互いの発表原稿に関心もってアドバイスし合うことができた。

3 実践交流

「伝え合う力を高める指導の工夫」について、各人が一実践を持ち寄り、授業の様子を交流した。質疑応答の時間をとることで互いの問題意識を共有することができた。

4 小中授業交流

(1) 単元名 「ワールドカフェ」の手法を使って、自分の考えを広げ、文章を書く

(2) 教材名 「ヤクーバとライオン」(講談社) 松里中学校3年 杉田 由之教諭

(3) 単元の目標

【話す・聞く】○場の状況や相手の様子に応じて話す。

○聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりする。

【書く】◎書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方等について評価して自分の表現に役立てるとともに、物の見方や考え方を深める。

(4) 成果と課題

ア 授業研究会を小中合同で行うことにより、国語科における小中連携について課題意識が高まった。

イ ワールドカフェという手法を学ぶことができ、興味深かった。

ウ 義務教育の集大成・中学校3年の「話す・聞く・書く」の授業を見ることができ、大変勉強になった。小・中で授業を見合うことは大変有意義であった。

Ⅲ 成果と課題

○山梨大学教職大学院客員教授・中澤勇三先生を招いて「伝え合う力を高めるための指導の在り方」について実践をもとにお話いただいたことは、大変有意義だった。学習会で学んだこと、時代は変わっても教師として普遍的なものがあること等、授業研究や日常の授業に生かすことができた。

○実践授業を通して、相手意識をもって伝え合うこと、グループやタブレットなどを活用してどのような授業展開や方法をとることができるのか、共に考え学ぶことができた。

○実践発表は題材や教材のとらえ方、授業の進め方を考える上で大変参考になり日常の授業、実際の指導に役立った。

(部長 岡村 理恵)